

30年度 災害時等連絡体制整備への取組みについて

(埴原東) 町会

発表者：仙石町会長

<p>取組み方法</p> <ul style="list-style-type: none">・話し合いの時間。回数。メンバー等・話し合いの中での意見・災害時に支援を要する人を、どのように把握したか。・災害時に支援を要する人は、どのような人と決めたか。	<ul style="list-style-type: none">・年2回正副町会長・常会長・正副防災部長・民生児童委員・組織図の見直し・登録者リストにより組長等がほぼ把握している。・高齢者で特に一人暮らしの方・小さな子供のいる家庭など
<p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・誰が誰に伝達するか。連絡網はできたか。・連絡網には、どのような町会役員が関わるか。・避難所移送の支援体制は整ったか。	<ul style="list-style-type: none">・十分なものはできていない。・正副町会長・常会長・正副防災部長・民生児童委員。次年は隣組長まで広めたい。・出来ていない。対策本部（一時避難所）に集まった中で対応。
<p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none">・支援体制を、町会内でどのように周知するか。・町会では、どのような支援体制を組織する予定か	<ul style="list-style-type: none">・自主防災組織を中心とした組織図に携帯電話の番号を入れる。・（本人の了解を得る）などして、4月以降見直しをする。・見直し後役割を周知し体制を整える。・現職の看護師及び経験者の把握をし（組織には入れない）役員の中で情報を共有する。・飲料水を確保するため井戸所有者の把握（浅井戸であるが加熱すれば使用可能）
<p>感想等</p> <ul style="list-style-type: none">・支援体制整備で、町会で特徴的なこと。	<ul style="list-style-type: none">・戸数の少ない町会で多くの方が支援者をわかっている。・各戸の電話番号簿があり町会内でわかっている。